

科目名	スピーキング・スキルズⅠ	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	Reading English manga, group work, discussion, developing strategies of communication. 英語の漫画を読み、グループで話し合い、会話の方法を学ぶ。
	到達目標	Help students improve their speaking skills and gain confidence in a relaxed atmosphere. Help students maintain a conversation, give opinions and descriptions. リラックスし環境の中で会話の能力を高めて自信を持てるようにする。学生が継続して意見を持ちその説明をできるようにする。
授業計画	(1) Phonetics and phonemics (2) Intonation (3) Skit read through and practice (4) Skit read through and performance (5) New words and old words (6) Eiken STEP test presentations (7) Desert island group work (8) Tourist holiday planning (9) Restaurant scenario (10) Exchange verbal diaries (11) English songs (12) Interview twelve people (13) Battleships (14) Transcript practice (15) Transcript performance	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料
	参考文献	Chatterbox - Widdows - Nan'un-do ほか
成績評価の基準と方法	基準	授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。
	方法	授業中の発表、コントリビューション 50% 面接試験 50%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	スピーキング・スキルズⅡ	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	Reading English manga, group work, interactive speaking games, songs and video. 英語の漫画を読み、グループで話し合い、会話の方法を学ぶ、ビデオ、曲。
	到達目標	Help students improve their speaking skills and gain confidence in a relaxed atmosphere. Help students maintain a conversation and give opinions and descriptions. リラックスし環境の中で会話の能力を高めて自信を持てるようにする。学生が継続して意見を持ちその説明をできるようにする。
授業計画	(1) Chants. Singing and reading songs (2) Short speech preparations (3) Word association test (I), introduction (4) Dream school timetable (5) Present timetable (6) Short speech presentations (7) Teach the world (8) Word association test (II), 50 samples (9) Air traffic controller (10) Tongue twisters and Dr Seuss (11) High street activity (12) Exchange new year stories (13) Restaurant scenario (14) Transcript practice (15) Transcript performances	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料
	参考文献	Topic talk, Issues - McLean - EFL Press ほか
成績評価の基準と方法	基準	授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。
	方法	授業中の発表、コントリビューション 50% 面接試験 50%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	リスニング・スキルズⅠ	
担当者	スコット・バーンズ / Scott Burns	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	海外のテレビ番組やテーマ別に作成されたテキストの中から会話を聴き取る演習を行う
	到達目標	海外の様々なテレビ番組中の会話の内容を理解できるように、リスニング力を高めることを目標とする
授業計画	(1) 自己紹介 (学生、講師) explanation of listening skills, factors, class rules and how to study English (2) 学生投票第1位の課の演習 “Downton Abbey” Episode 1, listening activity from text (3) 学生投票第2位の課の演習 “Downton Abbey” Episode 2, listening activity from text (4) 学生投票第3位の課の演習 小テスト, “Downton Abbey” Episode 3 (5) 学生投票第4位の課の演習 appropriate foreign film (6) 学生投票第5位の課の演習 continuation foreign film, listening activity from text (7) 学生投票第6位の課の演習 “Downton Abbey” Episode 4, listening activity from text (8) 学生投票第7位の課の演習 “Downton Abbey” Episode 5, music lyrics listening activity (9) 学生投票第8位の課の演習 “appropriate foreign film, (10) 学生投票第9位の課の演習 continuation of foreign film, listening activity from text (11) 学生投票第10位の課の演習 小テスト, “Downton Abbey” Episode 6 (12) 復習1 directions listening activity, listening activity from text (13) 復習2 the Japanese Cultural Karuta Game listening skills activity (14) 復習3 listening activity from text, “Downton Abbey” Episode 7 (15) 総まとめる review	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・課題をこなす ・TV、CD等、何でもいいので英語を聴くこと。
使用教材・参考文献	使用教材	Tactics for Listening
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	到達目標が達成されたものは合格とします。
	方法	受講態度 60%、小テスト 20%、試験 20%
備考	テキストで履修する課は、学生の投票によって決められる。ミニ劇を行う予定ですので、一緒に英語を楽しみましょう。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	リスニング・スキルズⅡ	
担当者	スコット・バーンズ / Scott Burns	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	海外の映画やテーマ別に作成されたテキストの中から会話を聴き取る演習を行う
	到達目標	海外の様々な映画の会話の内容を理解できるようにリスニング力を高めることを目標とする
授業計画	(1) 自己紹介 (学生、講師) (2) 学生投票第1位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 11 (3) 学生投票第2位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 12 (4) 学生投票第3位の課の演習 “小テスト” (5) 学生投票第4位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 13 (6) 学生投票第5位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 14 (7) 学生投票第6位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 15 小テスト (8) 学生投票第7位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 16 (9) 学生投票第8位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 17 (10) 学生投票第9位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 18 小テスト (11) 学生投票第10位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 19 (12) 復習1 (13) 復習2 (14) 復習3 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・課題をこなす ・TV、CD等、何でもいいので英語を聴くこと。
使用教材・参考文献	使用教材	Impact Listening
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	到達目標が達成されたものは合格とします。
	方法	受講態度 60%、小テスト 20%、試験 20%
備考	テキストで履修する課は、学生の投票によって決められる	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	リーディング・スキルズ I	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	-	
科目概要	授業内容	Reading selected books and texts. 配布する本および配布資料を読む。
	到達目標	Improve the way students read and understand texts. Raise their confidence and ability when interacting with the English written word. テキストを読み理解する能力を高める。英文による情報に対する自信と能力を高めることを目標とする。
授業計画	(1) Reading test and evaluation (2) Choosing book 1 and private reading (3) Reading comprehension (4) Group reading one book (5) Vocabulary building (6) Improve reading speed activity (7) Book report. Choose book 2 (8) Quizlet and reading passages (9) Quizlet and reading passages (10) Quizlet and reading passages (11) Quizlet and reading passages (12) Simple English Wikipedia (13) Word association (14) Book report preparation (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。毎週選んだ本を読んでおくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料
	参考文献	Reading Pass 1 - Bennett - Nan'un-do ほか
成績評価の基準と方法	基準	授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。
	方法	授業中の発表、コントリビューション 50% 試験 レポート 50%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	リーディング・スキルズⅡ	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	Reading selected books and texts. 配布する本および配布資料を読む。
	到達目標	Improve the way students read and understand texts. To raise their confidence and ability when interacting with the English written word. テキストを読み理解する能力を高める。英文による情報に対する自信と能力を高めることを目標とする。
授業計画	(1) Reading test and evaluation (2) Choose book 1 and private reading (3) Halloween (4) Class read a set text (5) Class read a set text (6) Vocabulary test (7) Basic English 850 (8) Combining words (9) Reading comprehension (10) Gap-fill sentences (11) Book reports (I), (II) for book (I) (12) Reading comprehension (13) Book reports (III) for book (II) (14) Book reports (IV) for book (II) (15) Reading comprehension	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。毎週選んだ本を読んでおくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料
	参考文献	Reading Advantage 1 - Malarcher - Thomson ほか
成績評価の基準と方法	基準	授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。
	方法	授業中の発表、コントリビューション 50% 試験 レポート 50%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	ライティング・スキルズ I	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	-	
科目概要	授業内容	Writing practice. 英文を書く練習をする。
	到達目標	To improve students ability to communicate through writing whilst developing a personal writing style. 各自が自身の文章能力を高めることによって、コミュニケーション能力おも高めることを目的とする。
授業計画	(1) Hiragana Times translation (2) Diary composing (3) Time, person, verb, place (4) Ink blot composition (5) Spidergram (6) Dialogue writing (7) Pair work research (8) About / during / while (9) Scaffold writing (I) ,basic story composition (10) Replacing words (11) Writing animation text (12) Writing animation text (13) Scaffold writing (II) ,advanced story composition (14) The key story (15) Test practice	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。毎週日記を書いておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料
	参考文献	Composition Practice - Blanton - Thomson ほか
成績評価の基準と方法	基準	授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。
	方法	授業中の発表、コントリビューション 50% 試験 日記 50%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	ライティング・スキルズⅡ	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	-	
科目概要	授業内容	Writing practice. 英文を書く練習をする。
	到達目標	To improve students ability to communicate through writing whilst developing a personal writing voice and style. 各自が自身の文章能力を高めることによって、コミュニケーション能力も高めることを目的とする。
授業計画	(1) The key story review (2) Haiku writing, syllable counting (3) Group story writing introduction (4) Group story writing development (5) Common expressions (6) 100 word research (7) Writing test (8) Word association (9) Scaffold writing review (10) Manga writing (11) Picture stories (12) Gap-fill texts (13) Internet graded writing exercises, basic (14) Internet graded writing exercises, intermediate (15) Test practice	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。毎週日記を読んでおくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料
	参考文献	Within your reach - Cliffe - Nan'un-do ほか
成績評価の基準と方法	基準	授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。
	方法	授業中の発表、コントリビューション 50% 試験 日記 50%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	カレント・イングリッシュ	
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	毎時間国内外の情勢について質疑応答した後、1)BBC ニュースを聴き、空所補充後スクリプトを提出、2)時事英語関連語彙・文例を研究、3)英字新聞記事を読み、語彙構造を理解した上でサマリーを作成提出する。
	到達目標	国内外の時事問題に関する BBC 放送、新聞英語の語彙、構造に親しみ、時事問題等について英語で理解、表現できるようになる。
授業計画	(1) What's going on in Japan/world? BBC News & The Guardian Weekly (2) What's going on in Japan/world? BBC News & The Guardian Weekly (3) What's going on in Japan/world? BBC News & The Guardian Weekly (4) What's going on in Japan/world? BBC News & The Guardian Weekly (5) What's going on in Japan/world? BBC News & The Guardian Weekly (6) What's going on in Japan/world? BBC News & The Guardian Weekly (7) What's going on in Japan/world? BBC News & The Guardian Weekly (8) What's going on in Japan/world? BBC News & The Guardian Weekly (9) What's going on in Japan/world? BBC News & The Guardian Weekly (10) What's going on in Japan/world? BBC News & The Guardian Weekly (11) What's going on in Japan/world? BBC News & The Guardian Weekly (12) What's going on in Japan/world? BBC News & The Guardian Weekly (13) What's going on in Japan/world? BBC News & The Guardian Weekly (14) What's going on in Japan/world? BBC News & The Guardian Weekly (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・発表するトピック・情報を準備する。課題記事の英文サマリーを作成する。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業で習った単語、表現を整理する。
使用教材・参考文献	使用教材	プリント、BBC News、 The Guardian Weekly
	参考文献	S. Sakasegawa: A Companion to Practical English. 青山社 2000 年
成績評価の基準と方法	基準	BBC News 及び英字新聞記事が凡そ理解できるようになったものは 合格とします。
	方法	毎時間毎のコンツリビューション、課題提出 70%、終了試験 30%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	パブリック・スピーキング・スキルズ	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	パブリックスピーキングの練習をします。個人学習とグループ学習を含みます。
	到達目標	パブリックスピーキング能力における自信を生徒につけること。
授業計画	(1) What is a speech? (2) Different types of speech (3) Reading speeches (4) Intonation practice (5) Rhythm practice (6) Practice speeches in pairs (7) Public speaking in groups (8) Ten minute group presentation (9) Reading speeches (10) Intonation practice (11) Rhythm practice (12) Practice speeches in pairs (13) Public speaking in groups (14) Practice 15 minute group presentation (15) Practice 15 minute group presentation	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料
	参考文献	The Speeches of Barack Obama, CNN English Express ほか
成績評価の基準と方法	基準	授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。
	方法	授業中の発表、コントリビューション 50%、試験 50%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	ディベート・スキルズ	
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	国内外の諸問題について知識を深め、自分の意見をまとめ、英語で論理的、批判的に発表、議論できるように、毎時間決まったトピックについてディベートを試みる。
	到達目標	与えられたトピックに関し英語で自分の意見をまとめ、議論できるようになる。
授業計画	(1) Internet Safety or Freedom of Expression? (2) Honour or Burden? (3) Clean Energy or Potential Threat? (4) Real Risk or Great Technology? (5) Legalization or Outlawing of Gay Marriage? (6) (6) Separate Smoking Area or Total Ban? (7) (7) Right To Die or Responsibility to Live? (8) (8) Punishment or Discipline? (9) (9) To Skip or Not to Skip? (10) (10) Performance or Seniority? (11) (11) Free Trade or Protection? (12) (12) Animal Rights or Human Profits? (13) (13) Peace Constitution or Revision? (14) (14) Death Penalty or Human Rights? (15) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・テキストを前もって読み、ディベートする内容を英文で準備しておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に使われた英語表現を復習し、次回のディベートでの表現に取り入れる。
使用教材・参考文献	使用教材	Ueda, I., Ueda, T., Taoka, C. & Yoneda, E. Pros and Cons - Discussing Today's Controversial Issues. Cengage Learning Co., Ltd. 2014 ISBN 978-4-86312-252-9
	参考文献	Sakasegawa, S. A Companion to Practical English. Seizansha Co., Ltd. 2000 ISBN4-88359-041-0
成績評価の基準と方法	基準	テキストで扱ったトピックスについて英語で自分の意見をまとめ、議論できるようになったものは合格とする。
	方法	授業中の発表、コンツリビューション 70%、終了試験 30%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語の文法 I	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	英語の 8 品詞、5 文型について学び、その機能、具体的な使い方を理解する。
	到達目標	8 品詞の具体例を列挙できること、そして、それらを使って、5 文型の中に相当する英文を要領よく作れるようになること。
授業計画	(1) 文の構造と要素 (2) 文の種類 (3) 動詞 (4) 時制 (5) 助動詞 (6) 動詞の態 (7) to-不定詞 (8) 原形不定詞 (9) 分詞 (10) 動名詞 (11) 関係代名詞 (12) 関係副詞 (13) 比較級 (14) 最上級 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	品詞、文型、句、節の使い分けについての確認を毎週行う。
使用教材・参考文献	使用教材	河上道生 監修, 丸井晃二郎 著 『ORBIT 総合英語』 山口書店 1996 年 ISBN4-8411-1387-8
	参考文献	安井稔 著『英文法総覧』 開拓社 1982 年
成績評価の基準と方法	基準	8 品詞、5 文型を具体的に使いこなせるものは合格とする。
	方法	Class Participation 25%, Homework 25%, Final 50%
備考	毎回の出席を心がけて下さい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語の文法Ⅱ	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	英語の8品詞、5文型について学び、その機能、具体的な使い方を理解する。
	到達目標	8品詞の具体例を列挙できること、そして、それらを使って、5文型の中に相当する英文を要領よく作れるようになること。
授業計画	(1) 不定詞 (2) 分詞 (3) 時制 (4) 進行形 (5) 完了形 (6) 態 (7) 仮定法 (8) 比較構文 (9) 否定 (10) 数量詞 (11) 法助動詞 (12) 副詞 (13) 代名詞 (14) 関係詞 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	品詞、文型、句、節の使い分けについての確認を毎週行う。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを使用。
	参考文献	安井稔 著『英文法総覧』開拓社 1982年
成績評価の基準と方法	基準	8品詞、5文型を具体的に使いこなせるものは合格とする。
	方法	Class Participation 25%, Homework 25%, Final 50%
備考	毎回の出席を心がけて下さい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語学概論	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	言語学、そして英語学入門としての授業をおこなう。具体的に言語現象（語、語句、文）を観察、分析する。
	到達目標	英語学の中に存在する、各分野について学び、それらの区別ができるようになる。
授業計画	(1) 統語論(1) (2) 統語論(2) (3) 統語論(3) (4) 形態論(1) (5) 形態論(2) (6) 形態論(3) (7) 音韻論(1) (8) 音韻論(2) (9) 音韻論(3) (10)意味論(1) (11)意味論(2) (12)意味論(3) (13)語用論(1) (14)語用論(2) (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	数種の言語データの分析を毎週課す。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	An Introduction to Language. Victoria Fromkin and Robert Rodman. Holt, Rinehart and Winston, Inc.
成績評価の基準と方法	基準	与えられた言語（の文）に対して、言語学的な観察、分析ができるようになったものは合格とする。
	方法	Class Participation 50%, Final 50%
備考	毎回の出席を心がけて下さい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語の歴史	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	英語の歴史の入門としての授業をおこなう。具体的には、今まであたり前と思っていた英語の知識を、客観的にもう一度、見直す作業をおこなう。
	到達目標	英語の歴史に関連させながら、英語の基本語順、発音、語彙について理解ができるようにする。
授業計画	(1) 変化しつつある英語 (2) 綴り字と発音 (3) アクセント (4) 共通語と方言 (5) アメリカ英語 (6) 言語戦争 (7) 近代英語期 (8) 中英語期 (9) 古英語期 (10) 名詞 (11) 不定冠詞 (12) 代名詞 (13) 副詞 (14) 動詞 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	歴史の知識、および英文法の知識の確認を毎週行う。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	中尾俊夫『英語の歴史』講談社現代新書 1989年
成績評価の基準と方法	基準	英語の文法を理解し、それらを用いて英語文を読めるものを合格とする。
	方法	Class Participation 50%, Final 50%
備考	毎回の出席を心がけて下さい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	児童英語	
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	Gain experience creating and practicing games and activities to enable learning through play. クラスでゲームを考え、そのゲームを実行し、そのゲームを通じて学ぶ。
	到達目標	Provide children with the tools to make words themselves through spelling, reading, writing and speaking. 子供たちが、読み書きを自発的にする能力を提供できるようになることを目的とする。
授業計画	(1) Compare children's textbooks (2) Using props (3) Music in the classroom (4) Compare children's textbooks (5) Using video (6) Using the internet (7) Five minute presentations (8) Teach a short class in a local nursery (9) Using games (10) More songs and props (11) Reading picture books (12) Making picture books (13) Preparing a ten minute class (14) Practice ten minute class (15) Teach ten minute class in a local nursery	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料
	参考文献	Up and Away - Crowther - Oxford University Press ほか
成績評価の基準と方法	基準	授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。
	方法	授業中の発表、コントリビューション 50% 試験 project 50%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語教育演習	
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	英語の教授法の歴史を振り返りながら、代表的な教授法の理念と特徴について学習する。Larsen-Freeman (1986)の一部の精読を中心に行う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語の教授法の歴史を理解する。 代表的な教授法の理念と特徴を理解する。
授業計画	(1) Introduction (2) The Grammar-Translatioin Method (1) (3) The Grammar-Translatioin Method (2) (4) The Direct Method (1) (5) The Direct Method (2) (6) The Audio-Lingual Method (1) (7) The Audio-Lingual Method (2) (8) The Audio-Lingual Method (3) (9) The Total Physical Response Method (1) (10)The Total Physical Response Method (2) (11)The Total Physical Response Method (3) (12)The Communicative Approach (1) (13)The Communicative Approach (2) (14)The Communicative Approach (3) (15)Conclusion	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の初めに、前回の授業内容についてのクイズを行う。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	Larsen-Freeman, D. (1986). "Techniques and Principles in Language Teaching." Oxford University Press. ISBN: 019434133X
成績評価の基準と方法	基準	英語の教授法の歴史と代表的な教授法の理念と特徴を理解した者は合格とする。
	方法	受講態度 30%、課題ほか 70%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英米文学概論 I	
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	19世紀前半のアメリカン・ルネッサンスを中心に、作家や文化的背景を紹介し、作品の抜粋をできる限り原文で読む。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。
	到達目標	19世紀のアメリカの資本主義の展開と大衆文化の広がり、それに対する作家たちの反応について学ぶと共に、小説作品や映画作品を鑑賞することで英語の読解力や聴取能力を向上させる。
授業計画	(1) クール 1-1：アメリカ資本主義の起源と大衆文化—演劇とサーカス (2) クール 1-2：アメリカ資本主義の起源と大衆文化—ヒーローの登場 (3) クール 1-3：アメリカ資本主義の起源と大衆文化—『アラモ』を見る (4) クール 2-1：エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品① (5) クール 2-2：エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品② (6) クール 2-3：エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品③—『アッシャー家の崩壊』を見る (7) クール 3-1：ナサニエル・ホーソンの文学① (8) クール 3-2：ナサニエル・ホーソンの文学② (9) クール 3-3：ナサニエル・ホーソンの文学③—『スカーレット・レター』を見る (10) クール 4-1：メルヴィルと『白鯨』① (11) クール 4-2：メルヴィルと『白鯨』② (12) クール 4-3：メルヴィルと『白鯨』③ (13) クール 4-4：メルヴィルと『白鯨』④—『白鯨』を見る (14) 質疑 (15) 総括	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・プリントの英文を読み返し、語句や表現を覚える。
使用教材・参考文献	使用教材	プリント、ビデオ
	参考文献	プリント、ビデオ
成績評価の基準と方法	基準	授業内容を理解し、作品中の英文を読み解けること。
	方法	筆記試験 80%、発言 20%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英米文学概論Ⅱ	
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	ロスト・ジェネレーションのアメリカ文学作品と作家を概観すると共に、英語力を徹底強化する。必要に応じて英検、TOEIC の指導も行う。
	到達目標	20 世紀のアメリカの消費社会の展開と大衆文化の広がり、それに対する作家たちの反応について学ぶと共に、小説作品や映画作品を鑑賞することで英語の読解力や聴取能力を向上させる。
授業計画	(1) クール 1-1: 世紀末から大戦期のアメリカ (2) クール 1-2: 戦後 (1920ー) のアメリカ社会 (3) クール 1-3: 『キングコング』を見る (4) クール 2-1: フィッツジェラルドの生い立ち (5) クール 2-2: 『グレート・ギャツビー』を見る (6) クール 2-3: 『グレート・ギャツビー』分析 (7) クール 3-1: アーネスト・ヘミングウェイの青少年時代 (8) クール 3-2: ヨーロッパでの生活と『武器よさらば』 (9) クール 3-3: スペイン内乱と『誰がために鐘は鳴る』 (10) クール 3-4: 『老人と海』を見る (11) クール 4-1: 1929 年の大恐慌とその後 (12) クール 4-2: スタインベックとカリフォルニア (13) クール 4-3: 『怒りの葡萄』を見る (14) 質疑 (15) 総括	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・プリントの英文を読み返し、語句や表現を覚える。
使用教材・参考文献	使用教材	プリント、ビデオ
	参考文献	プリント、ビデオ
成績評価の基準と方法	基準	授業内容を理解し、作品中の英文を読み解けること。
	方法	筆記試験 80%、発言 20%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英米文学講読Ⅲ	
担当者	徳重 靖子 / TOKUSHIGE, Yasuko	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	現代アメリカ作家の第一人者である Earnest Hemingway の作品を通して、アメリカ短編小説の本質を探ってみる。 Nick Adams という Hemingway の分身を主人公とした” Nick Adams Stories” の中から八編を収録した” Indian Camp” という短編集を読む。
	到達目標	Hard Boiled style という短くて、平易な英語で書かれているが、その中に、キーワードが隠されていて、それをしっかりと見付けなければ、作品は理解できない。一語一語大切に読む力を養う。
授業計画	(1) Earnest Hemingway の紹介 (2) Three Shots (3) Three Shots (4) 読書感想文の準備 (5) Indian Camp (6) Indian Camp (7) 読書感想文の準備 (8) The Doctor and the Doctor's Wife (9) The Doctor and the Doctor's Wife (10) 読書感想文の準備 (11) The Indians (12) The Indians (13) The Indians (14) 読書感想文の準備 (15) 期末テストに向けての質疑応答	
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	各作品ごとに読書感想文を英語で書かせる
使用教材・参考文献	使用教材	INDAN CAMP from The Nick Adams Stories By Earnest Hemingway Asahi Press
	参考文献	特に指定しない。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて良い読書感想文が英語で書ければ合格とします。
	方法	期末レポート 80% 平常点 20%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英米文学講読Ⅳ	
担当者	徳重 靖子 / TOKUSHIGE, Yasuko	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	前期に引き続き Earnest Hemingway の短編小説を読みます。英語に慣れてきているので、どんどん読み進みたいと思います。 各作品読了毎に読書感想文を一つのテーマを見つけて英語で書いてもらいます。
	到達目標	前期同様一語一語大切に読み、隠されているキーワードを見付ける力を養う。
授業計画	(1) The Indians Moved Away (2) 感想文の準備 (3) The Light of the World (4) The Light of the World (5) The Light of the World (6) 感想文の準備 (7) The Battler (8) The Battler (9) The Battler (10) The Battler (11) 読書感想文の準備 (12) The Killers (13) The Killers (14) The Killers (15) The Killers 学期末レポートの質疑応答	
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各作品読了毎に読書感想文を英語で書かせる。
使用教材・参考文献	使用教材	前期と同じ INDIAN CAMP from The Nick Adams Stories By Earnest Hemingway Asahi Press
	参考文献	特に指定しない。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて良い英文の読書感想文を解りやすく、読みやすいように書けると合格とします。
	方法	期末レポート 80% 平常点 20%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英米文学研究Ⅱ	
担当者	徳重 靖子 / TOKUSHIGE, Yasuko	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	日本の正反対の最西端に位置するアイルランドには、日本と同じぐらいに不思議で、美しい妖精たちが人間に知恵と力を与える民話であふれています。W.B. Yeats の詩を通して、美しいアイルランドの不思議な世界を学んでみたいと思います。
	到達目標	学習者は必ず事前にわからない単語を辞書で引いてきて、少なくとも全体の意味を把握できるようになる。 その詩の魅力は何かを理解できるようになる。 好きな詩は暗唱する。
授業計画	(1) アイルランドと Yeats の紹介 (2) To Some I have Talked With By the Fire (3) The Lake Isle of Innisfree (4) A Fairy Song (5) A Cradle Song (6) When You are Old (7) Into the Twilight (8) The Song of the Old Mother (9) The Fiddler of Dooney (10) The Heart of the Woman (11) Sailing to Byzantium (12) Sailing to Byzantium (13) The Host of the Air (14) The Host of the Air (15) 期末テストの質疑応答	
自学自習	事前学習	アイルランドについての予備知識があると楽しくなるので、ネットや図書館でアイルランド関係のものを調べておくように。
	事後学習	・心に残った詩を時々暗唱させる。
使用教材・参考文献	使用教材	テキストに使う12編の詩のプリントを開講時まで、学務課で受け取ること
	参考文献	特に指定しない。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて暗唱を確実にしたものは合格とします。
	方法	期末課題 80% 平常点 20%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英国の文化 I	
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	英国を支えてきた王室、政治、宗教、教育、マスメディア等の諸制度に焦点を当て、その歴史的背景や現在の姿を通して、英国の文化を総合的に考察する。
	到達目標	英文資料を使って英国の諸制度について概略理解する。
授業計画	(1) 英国概観 (2) 英国概観 (3) 王室 (4) 階級 (5) 国会 (6) 国会 (7) 司法 (8) 司法 (9) マスメディア (10) マスメディア (11) 宗教 (12) 宗教 (13) 教育 (14) 教育 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	学習した内容を復習し、重要事項、専門用語等を確認し、整理する。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料(英文)
	参考文献	酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る 緑と石とゆとりの国イギリス』ISBN978-4-434-11728-2、UK in Japan (http://ukinjapan.fco.gov.uk/ja)
成績評価の基準と方法	基準	上記諸制度の概要を理解し、説明できるようになった者は合格とする。
	方法	授業内容（英国諸制度の概要）を理解し、説明できるようになった者は合格とする。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英国の文化Ⅱ	
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	英国の宗教行事、年中行事、食文化に焦点を当て、その歴史的背景や現在の姿を通して、英国の文化を総合的に考察する。
	到達目標	英国の宗教、年中行事、食文化についてその内容と意義を概略理解する。
授業計画	(1) 年中行事概観 (2) 年中行事概観 (3) ハロウィーン (4) ハロウィーン (5) (5) ガイフォークスデイ (6) クリスマス (7) クリスマス/ホグマネイ (8) セントバレンタインズデイ (9) イースター (10) イースター (11) イースター/マザーズデイ (12) メイデイ (13) 食文化 (14) 食文化 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学習した事項の内容と意義を復習し、専門用語等を整理する。
使用教材・参考文献	使用教材	担当者作成資料
	参考文献	酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る緑と石とゆとりの国イギリス』現代図書 2008年 ISBN978-4-434-11728-2 UK in Japan (http://ukinjapan.fco.gov.uk/ja)
成績評価の基準と方法	基準	上記諸行事の概要を理解し、説明できるようになった者は合格とする。
	方法	プレゼンテーション等の授業貢献(40%)、終了試験(60%)。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	米国の歴史と文化 I	
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	『パイレーツ・オブ・カリビアン』とメルヴィルの『白鯨』を比較することで、英語の読解力を向上させると共に、作家の考え方やその背景となる社会状況について学ぶ。また、音声教材や映像作品も交えて、作品について深く学ぶ。必要に応じて英検、TOEIC の指導も行う。
	到達目標	現代英語の文法、語法や口語体を生きた英文の中で読み解くことで、実践的な英語読解力を身につける。また、作品の背景となった社会状況を理解する。
授業計画	(1) 『白鯨』(1956年版)鑑賞 (2) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (3) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (4) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (5) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (6) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (7) 『パイレーツ・オブ・カリビアン—ブラックパールのかい』鑑賞 (8) ディスカッション (9) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (10) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (11) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (12) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (13) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl 精読 (14) 『パイレーツ・オブ・カリビアン』との比較 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学習箇所を繰り返し、読み、語句や表現法を覚える。 ・会話練習を継続する。
使用教材・参考文献	使用教材	Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl (ペンギン)
	参考文献	適宜指示する
成績評価の基準と方法	基準	教科書の英文を読み解き、授業中に質問する。
	方法	筆記試験 60%、会話テスト 20%、発言 20%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	米国の歴史と文化Ⅱ	
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	『パイレーツ・オブ・カリビアン』とメルヴィルの『白鯨』を精読、比較することで、英語の読解力を向上させると共に、作家の考え方やその背景となる社会状況について学ぶ。また、音声教材や映像作品も交えて、作品について深く学ぶ。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。
	到達目標	現代英語の文法、語法や口語体を生きた英文の中で読み解くことで、実践的な英語読解力を身につける。また、作品の背景となった社会状況を理解する。
授業計画	(1) 『パイレーツ・オブ・カリビアン—デッドマンズ・チェスト』鑑賞 (2) 『白鯨』の原文名場面精読 (1) (3) 『白鯨』の原文名場面精読 (2) (4) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (5) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (6) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (7) 『白鯨』(1998年版) 鑑賞 (8) 前期の『白鯨』の授業についてディスカッション (9) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (10) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (11) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (12) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (13) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest 精読 (14) 『白鯨』との比較 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学習箇所を繰り返し、読み、語句や表現法を覚える。 ・会話練習を継続する。
使用教材・参考文献	使用教材	Pirates of the Caribbean Dead Man's Chest (ペンギン)
	参考文献	適宜指示する
成績評価の基準と方法	基準	教科書の英文を読み解き、授業中に質問する。
	方法	筆記試験 60%、会話テスト 20%、発言 20%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	海外語学研修	
担当者	◎酒瀬川 純行 / 入江 公啓 / マーカス・シオボールド / 蒲地 賢一郎	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 6単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	英国の歴史、文化、生活及び関連英語表現に関する事前講義。現地での 45 時間の英語研修、並びに週末研修旅行。研修に関するレポート。
	到達目標	コミュニケーション手段としての英語を習得し、国際感覚を涵養する。
授業計画	(1) 事前研修 (英国の概要) (2) 事前研修 (英国の歴史と文化) (3) 事前研修 (英国の歴史と文化) (4) 事前研修 (日常会話表現) (5) 語学研修、文化施設等視察 (6) 語学研修、文化施設等視察 (7) 語学研修、文化施設等視察 (8) 語学研修と週末研修旅行 (9) 語学研修、文化施設等視察 (10) 語学研修、文化施設等視察 (11) 語学研修と週末研修旅行 (12) 語学研修、文化施設等視察 (13) 語学研修、文化施設等視察 (14) 語学研修と週末研修旅行 (15) 総まとめ (レポート作成)	
自学自習	事前学習	配布されたプリント等を熟読しておくこと。
	事後学習	習った事柄を整理し、マスターする。
使用教材・参考文献	使用教材	引率指導者作成プリント、語学研修先配布教科書・プリント
	参考文献	小池滋監修、『読んで旅する世界の歴史と文化 イギリス』新潮社 1994 年 酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る緑と石とゆとりの国イギリス』現代図書 2008 年
成績評価の基準と方法	基準	コミュニケーション手段としての英語を習得し、国際感覚を身につけた者は合格とする。
	方法	事前講義・現地語学研修終了 (90%)、研修終了レポート (10%)
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語の音声	
担当者	平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	この授業では、日本語の音声について、どのように発音がなされているのかといったことについての概説を行う。なお、適宜英語など日本語以外の言語の音声にも触れながら音声学の基礎について学ぶ。
	到達目標	この授業をとおして、発声や発音のしくみについて理解し、重要事項が説明できるようになる。また、現代日本語の音声における母音・子音・アクセントなどの特徴を理解し、それを適切な音声学の用語・概念で説明できるようになることを目指す。
授業計画	(1) オリエンテーション 音声学とは何か？ (2) 音声器官 (3) 子音 (1) (4) 子音 (2) (5) 子音 (3) (6) 子音 (4) (7) 小テスト (1) (8) 小テスト (1) 解説 子音 (5) (9) 母音 (1) (10) 母音 (2) (11) 母音 (3) (12) 音節とモーラ (13) アクセント (14) 小テスト (2) (15) 小テスト (2) 解説 鹿児島方言の音声	
自学自習	事前学習	テキストの当該の箇所を読んでくること。
	事後学習	小テストと期末試験に向けて復習を欠かさないこと。
使用教材・参考文献	使用教材	斎藤純男 (2006) 『日本語音声学入門 改訂版』三省堂。(ISBN 4385345880)
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	日本語の音声について、基礎的なことに加え応用的なことも理解できていれば合格とする。
	方法	期末試験 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% 正当な理由なく 5 回以上欠席した者は、期末試験の受験を認めない (追・再試験を受けることもできない)。
備考	予習・復習の欠かせない授業であることをよく理解して受講してください。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語の文法	
担当者	平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	この授業では、日本語の文法について取り上げ、そこに潜んでいるルールについて学ぶ。基本的には講義形式で進めるが、自分のことばどどのように言うか考える「内省」などの作業を含むので、積極的な授業参加が求められる。
	到達目標	この授業をとおして、日本語の文法の基礎について理解し、重要事項について適切な言語学・日本語学の用語・概念で説明できるようになることを目指す。
授業計画	(1) オリエンテーション 文法とは何か？ (2) 形態論 (1) (3) 形態論 (2) (4) 形態論 (3) (5) 形態論 (4) (6) 品詞 (7) 小テスト (1) (8) 小テスト (1) 解説 統語論 (1) (9) 統語論 (2) (10) 統語論 (3) (11) 統語論 (4) (12) 文法カテゴリー (1) (13) 文法カテゴリー (2) (14) 小テスト (2) (15) 小テスト (2) 解説 形容詞	
自学自習	事前学習	ふだんからことばづかい、友だちや家族との会話、テレビ、新聞、インターネットなど、日常生活にある言語を注意深く観察しておくこと。
	事後学習	小テストと期末試験に向けて復習を欠かさないこと。
使用教材・参考文献	使用教材	なし。授業時にハンドアウトを配布する。
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	日本語の文法について、基礎的なことに加え応用的なことも理解できていれば合格とする。
	方法	期末試験 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% 正当な理由なく 5 回以上欠席した者は、期末試験の受験を認めない（追・再試験を受けることもできない）。
備考	ことばに興味がある学生の受講を歓迎します。何か質問があれば気軽に声をかけてください。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	外国史概説	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	世界で最初に工業化を経験し、19世紀にはイギリス帝国として世界の諸地域に大きな影響を与えたイギリスの歴史を通じて、近現代世界史を概観する。
	到達目標	イギリス帝国の歴史を概観することを通じて、国境を越えた歴史的関係を理解することができるようになる。帝国の歴史が現代世界に残した影響を踏まえたうえで、現代社会について考えることができるようになる。
授業計画	(1) 「イギリス」とは何か？－4つの地域と帝国の「遺産」 (2) 近代イギリスの起点（1）－宗教改革と二つの「革命」 (3) 近代イギリスの起点（2）－帝国の形成 (4) 連合王国の成立と「イギリス国民」の誕生 (5) アメリカの独立と帝国の再編 (6) 産業革命の近代社会 (7) パクス・ブリタニカーヴィクトリア朝期のイギリス (8) イギリス帝国とアジア－アヘン戦争とインド (9) 世紀転換期のイギリス帝国（1）－アイルランド自治問題 (10) 世紀転換期のイギリス帝国（2）－南アフリカ戦争と帝国主義 (11) 第一次世界大戦とイギリス連邦の成立 (12) 第二次世界大戦とイギリス帝国 (13) 脱植民地化とイギリス (14) 帝国からヨーロッパへ？－ヨーロッパ統合とイギリス (15) 総まとめ－帝国支配が遺したもの	
自学自習	事前学習	・イギリスに関係するかどうかにかかわらず、新聞の国際面をみておくこと。 ・前回配布されたプリントや資料を見直し、流れを理解しておくこと。
	事後学習	・配布されたプリントを見直して理解しておくこと。わからないことがあれば、辞書や参考文献で調べるか、教員に聞きにくること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。授業中にプリントと資料を配布する。
	参考文献	川北稔／木畑洋一編『イギリスの歴史：帝国＝コモンウェルスの歩み』（有斐閣、2000年）他、授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	近現代イギリス帝国史の基本的な事項が理解できており、文章で説明できていれば合格とする。
	方法	期末に実施する試験 60%、受講態度を 40%とし、受講態度は時折実施する小テストの結果、およびアンケートや感想文の提出状況で評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	文化史概説Ⅱ	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	近現代イギリス史、イギリス帝国史を題材に、近代化や都市化と文化との関係、宗教、階級、ジェンダー、エスニシティと文化との関係を歴史的に概観し、文化とは何かについて検討する。
	到達目標	イギリスを事例に近代社会が形成されていく過程を知ることで、近現代社会の諸制度や異文化を深く理解できるようになるとともに、現代社会や自文化を客観的にとらえる視点を身につける。多様性や可変性、越境性を踏まえて文化を理解することができるようになる。
授業計画	(1) 導入－文化とは何か？ (2) 文化史とは何か？（1） (3) 文化史とは何か？（2） (4) イギリス文化とは何か？－多様性と流動性 (5) 宗教とイギリス社会 (6) 「われら失いし世界」－工業化以前のイングランド社会と歴史人口学 (7) ジェントルマンであること－ヴィクトリア朝期の規範 (8) チャリティと近代イギリス (9) 帝国と食文化－紅茶と砂糖からみるイギリス史 (10) 余暇の成立と大衆娯楽－旅行と博覧会 (11) ジェンダーからみるイギリス近代（1） (12) ジェンダーからみるイギリス近代（2） (13) 帝国主義が遺したもの－多文化社会と歴史認識（1） (14) 帝国支配が遺したもの－多文化社会と歴史認識（2） (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回配布したプリントを見直して、流れを確認しておくこと。
	事後学習	・授業中に配布されたプリント、資料を見直し、わからない言葉を辞書や参考文献で調べるか、教員に聞くかして理解しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中にプリントと資料を配布する。
	参考文献	指昭博編『はじめて学ぶイギリスの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2012年）他、適宜授業中に紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	文化とは何かという問題、近代社会の特質、階級、ジェンダー、エスニシティの問題について理解できており、説明ができていれば合格とする。
	方法	期末に実施する試験が60%、受講態度を40%とする。受講態度は、時折実施する小テストの結果とアンケートや感想文の提出で評価する。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	地誌学 I	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	地域を総合的に捉える地誌学とはどのようなものかについて①基礎知識, ②地域調査の手法, ③具体的事例の三つのステップで解説します。
	到達目標	地誌学の基礎を理解し, 地域調査法の簡単な手法を利用することができるようになることを目標とします。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 地誌学の流れ (3) 地域あるいは風土 1 (4) 地域あるいは風土 2 (5) 地域調査法—統計 (6) 地域調査法—多変量解析 1 (7) 地域調査法—多変量解析 2 (8) 地域調査法—多変量解析 3 (9) 地域調査法—空中写真 (10) 地域調査法—主題図作成 1 (11) 地域調査法—主題図作成 2 (12) 地域調査法—主題図作成 3 (13) 地域を見る—日本と九州 (14) 地域を見る—鹿児島 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。
	参考文献	中村和郎・岩田修二編『地誌学を考える』古今書院, 1986年。
成績評価の基準と方法	基準	地誌学の用語と考え方について説明できることと地域調査法の利用法を理解していることを基準とします。
	方法	試験 50%, 授業内課題 30%, 受講態度 20%で評価します。
備考	授業内で簡単な作業を行います。詳細は必要に応じて指示します。授業の進展状況に応じて内容を修正しながら進めることがあります。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	地誌学Ⅱ	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	地域を総合的にとらえる視点について、①文献の活用、②地図の活用という観点から具体的な事例をふまえてお話しします。
	到達目標	地域について、文献や地図を活用して調査をする基礎的な方法を身につける。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 文献に見る地域の姿 1 (3) 文献に見る地域の姿 2 (4) 文献に見る地域の姿 3 (5) 統計に見る地域の姿 (6) GIS とは (7) 統計による主題図の作成 1 (8) 統計による主題図の作成 2 (9) 統計による主題図の作成 3 (10) 地図に見る地域の姿 (11) 地図をつくる 1 (12) 地図をつくる 2 (13) 地図をつくる 3 (14) 地図・図表を用いたプレゼンテーション (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	地域調査の手法について復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。必要に応じてプリントを配布します。
	参考文献	今村洋大編著『Quantum GIS 入門』古今書院, 2013.
成績評価の基準と方法	基準	文献、地図を用いた地域調査法が身に付いている事を基準とします。
	方法	試験 50%, 授業内課題 30%, 受講態度 20%で評価します。
備考	授業の中で実際に作業を行います。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル